

思考が現実化する。100%例外なく!

TAW PRESS

No. 34
2014.7

国際TAW協会会報誌 <http://www.taw.ac/>

TAW は人生運転メソッド TAW 受講生の感動ストーリー

思考が貯まると
現実化すると
実感しました!

海外からの宿泊客が全体の3割に急増!

TAWプレスでは毎号、TAWを活かして人生をバージョンアップした方たちの感動ストーリーをお届けします。

まずは、TAWを学んで仕事に新たな方向性を見出し、海外へのプロモーションや旅館組合との関わりなどを通して、宿泊客にも大きな変化が起きたという志賀希さんからお聞きしたお話です。



熊本県阿蘇郡
黒川温泉 旅館わかば
代表取締役

志賀 希さん



海外からの観光客を集客しよう

14年前に父の跡を継いで黒川温泉 旅館わかばの2代目として宿の経営に携わるようになりました。2年前に経営コンサルタントの方から、おもしろいセミナーがあると聞いて受講したのがマスターTAWでした。旅館というのは宿泊客を増やし稼働率を上げるための経営努力が常に求められます。TAWの提唱する「思考が現実化する。100%例外なく!」が本当なら、どうやって宿泊客を増やすのか、何かいい思考法があるのか聞いてみたいという気持ちでした。

TAWの講座の中では、自分の問題や目標に対して周りから意見をもらう時間がありました。私が宿の稼働率の話をする、講座の先生から、黒川温泉なら海外からの観光客も受け入れられるのではないかと、海外から人気となれば、日本人の観光客も増えるのではないかとアドバイスされたのです。

確かに、黒川温泉は外国人にとっても魅力ある観光地といえるかもしれません。阿蘇外輪山の静かな山間の温泉で、旅館やお土産物屋や食事処が川沿いに軒を連ねます。下駄ばきに浴衣姿で、日本的な趣が色濃く残る温泉街を散策するのもいいでしょう。宿ごとに趣向を凝らした露天風呂を入湯手形で巡るのもいいでしょう。阿蘇山を一望できるハイキングコースもありますし、伝統的な和食や昔ながらの生活文化を体験することもできます。温泉や日本文化に興味がある外国人なら、ぜひ行ってみたいと感じることでしょう。

これまで私自身も英語に対するコンプレックスがあり、旅館わかばでも英語ができないから外国人観光客には対応できない、



海外で黒川温泉と
旅館わかばを
PRする志賀さん



ウェルカムではないと思ってきたのです。

しかし、TAWの講座で、早い現実化には「思考を分散させることより集中させること」が重要と教わりました。そこで、考え方を転換し「外国人観光客を集客する」ことに思考を集中させようと決めました。もちろん目的のために、英語への苦手意識も変えていったのです。

組織に属して海外へプロモーションする

旅館は一軒一軒独立した経営を行っていますが、それぞれが全国組織の旅館組合にも属しています。私も熊本県の旅館組合の青年部に所属しています。

TAW講座では、個人でできないことも組織ならできると、組織の大切さが説かれました。これまで積極的に関わってこなかった青年部という組織の中での活動を、私も見直すようになりました。

すると、昨年4月には、熊本県の旅館組合の青年部の部長にならないかと推薦されたのです。「まだ、できない」と、理由を探して断ろうかと思いましたが、「組織は大事」と学んだ後でしたので、思い切って受けることにしました。

組織に入ってみると、将来的に必要な情報も入ってくるようになりました。国会議員のところへ陳情に行くなど、個人では限界があることも組織だからこそできると納得しました。

昨年10月には、初の試みとしてヨーロッパでの観光プロモーションが行われ、これにも参加してきました。ロンドン、パリ、アムステルダムと3都市を巡り、現地メディアや旅行会社を招

WEBで海外へ黒川温泉と旅館わかばの魅力を発信

いて、九州および黒川温泉の魅力をアピールしてきたのです。その後もタイやマレーシアなど東南アジア諸国へのアプローチも同様に進めていきました。



では、ほとんどなかった海外からの宿泊客が、今年の4月には全体の宿泊客の3割に届きそうなくらいに増えました。「外国人観光客を集客する」ことに集中した結果だと思っています。

■ 黒川温泉と旅館わかばのPRに力をそそぐ

TAWの考え方では、とにかく言い訳ができません。物事がうまくいかないのも自分の思考の結果として、何かのせいにするのがないのです。うまくいかないのは自分が「怠慢」だからで、グズグズとやらないでいるからだということです。

私も考えるだけでなく、やってみれば少しでも前に進めるし、方向性も見えてくるという思いで、何でもトライするようにしました。

そのような思いからヨーロッパのネットエージェントと契約も交わしました。旅館わかばのウェブページでも英語で発信するようにし、そこから予約を受けられるようにしました。すると、海外からも宿泊予約が入るようになったのです。

2年程前には、観光モニターの企画も考えました。外国人にモニターとして黒川温泉に来てもらい、ここで得た情報を母国で発信してもらおうと思ったのです。旅行会社に掛け合いましたが、この件は思ったように話が進展しませんでした。

しかし、現在では、街づくり協力隊として英語のできる委託職員が町に雇われて、海外から観光モニターを募る企画が実際に数回行われるようになりました。

TAWでは「思考は貯まれば現実になる」といいます。やりたいと思ったことは、思考が貯まれば、周りからも状況がわかるのだと、この件で良くわかりました。

また、黒川温泉が行っている外国人観光客の受け入れ態勢を整えるための取り組みにも参加しています。英語のマップやガイドブックを作成したり、黒川温泉の旅館組合のウェブサイトからも海外から予約ができるように、大幅なりニューアルを企画しています。「外国人に人気の温泉地といえば黒川温泉」と言われるくらい、知名度を上げていきたいですね。

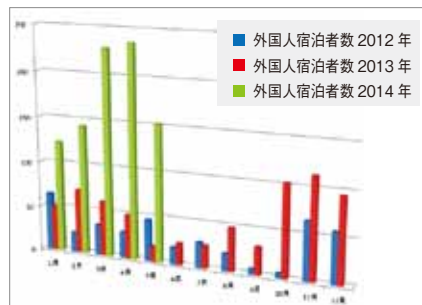
旅館わかばでも昨年12月から月に数回の英会話教室をはじめました。従業員が英語に親しみ、簡単な会話を覚えるようになると、外国人のお客さまにも十分なおもてなしができるようになってきました。



従業員のための英会話教室



海外の宿泊予約サイト



外国人宿泊者数は毎年増加している

■ 男親の役割は仕事をして稼ぐこと

以前は、幸せの価値観はお金を稼ぐことだけではなく、家族との時間を十分に持つことだと思ってきましたから、のほほんと宿の仕事をしてきたように思います。

TAW講座では、「人生の目的を達成しなさい」と説き、また家族関係でも、「男親の役割は子どもと一緒に遊んであげるのではなく、仕事をして稼ぐこと」と教えてもらいました。

それを受けて、私も家族との時間を仕事にシフトしていくようになりました。もちろん、バランスも必要です。そういった舵取りもうまくなりました。TAWでは「すべての問題は自分の中にある」としています。不協和音があつたら自分の思考や行動を変えればいいのですから、問題解決が早くできるようになったと思います。

■ 将来の夢は大きく

今まで英語にコンプレックスがあつたのがウソのように、今では旅館わかばが世界中の人と、コミュニケーションが取れて、つながりが持てる宿になれたらいいと思うようになりました。

将来はフランスに旅館を建てられたらおもしろいですね。日本風の旅館です。



日本のおもてなしを伝えたい

旅館わかばに海外のお客さまが来られるようになり、日本をもっと知ってもらいたいという思いが強まりました。今度は自分から海外に出て、事業を展開したらどうだろうというわけ

です。フランスに行って働いてみたいスタッフもいることでしょう。日本とフランスの宿で相乗効果が得られるようにも思います。情報はパリからヨーロッパ全域に発信して、宿はパリ郊外の田舎につくられたらいいでしょうね。

そう思っていると、7月にパリで開催されるジャパンエキスポに、全国旅館組合の青年部としてブースを出店することになりました。パリの状況も見てくださいと思います。

思考していると、それに見合った話が舞い込みます。思考の現実化の仕組みを知ると、できないことはない、思考を重ねればいつか現実になると思えるようになります。そうすると、今がますます楽しくなって、どこまでも夢は膨らみますね。

黒川温泉 旅館わかば
http://www.ryokanwakaba.com/